

## 社会

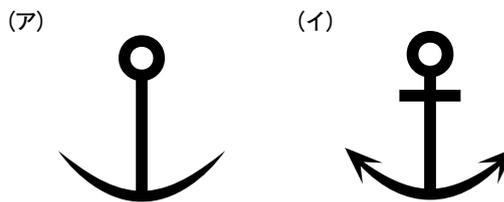
➡ 5年生 | 「水産業のさかんな地域」「工業生産をささえる運輸」

# 2つの「港」!?

## 比べて気づく地域の特性

### 1. 地図記号の不思議

意外と知られていませんが、港を表す地図記号が2種類あることをご存じでしょうか。



並べてみると形の違いは一目瞭然ですが、「どうして違うの?」という疑問が子どもたちに生まれます。

### 2. 答えがひとつとは限らない

「港」に対するイメージは、子どもによって違うでしょう。しかし、大抵は魚が水揚げされ「せり」が行われている、いわゆる「漁港」をイメージする傾向があります。5年生で「水産業のさかんな地域」を学習している途中であればなおさらです。しかし、実際には、輸送や乗船を目的とした「商港」があり、大きく分けると2種類の港が存在するわけです。

### 3. 比べてみよう

子どもたちにこの「答え」を伝える前に、必ずしておくことがあります。それは、地図帳を見ることです。例えば、私は兵庫県の尼崎市で勤務していますので、兵庫県南部の地域をじっくり見せるようにします。すると、子どもたちからも「本当だ! 尼崎市は(イ)の港だ!」「明石市には(ア)の港もあるよ!」という声が上がります。もちろん地域によって異なりますので、もし漁港ばかりの地域であれば、それを逆に他地域にまで目を広げさせることができます。

さて、地図上で確認できたところで答えを見せます。口頭で説明してしまってもよいのですが、おすすめはVTRや写真資料です。教科書などでも「工業生産」の単元に、輸送船の写真や図が掲載されています。

比べるポイントは、「船」「積み荷」「はたらく人」「港の様子」。もしVTRを撮影する場合は、これらのポイントをおさえておくとよいでしょう。

港の種類	(ア) 漁港	(イ) 商港
船	小型・中型船 網など漁の道具がついている	中型・大型船 クレーンで積み荷をのせかえる
積み荷	魚など	コンテナなど
はたらく人	漁師	ヘルメットをかぶり、作業服姿
港の様子	水揚げした魚などを並べて、せりが行われている	大きなクレーンがあり、コンテナなど、積み荷が並べられている

### 4. 自分たちの地域

2つの港について理解したところで、再び地図に戻ります。すると、子どもたちは自分たちが住んでいる地域の特徴に気づくことになります。漁港が近くにあり、商店街ではとれたての魚が並ぶ港町であることだったり、あるいは、商港の近くに工場が立ち並ぶ工業都市であることだったり。内陸地域であれば、どのようにして食料や製品などが運ばれてくるのかという物流のしくみに気づく材料にもなります。

「港」というひとつの観点にしぼった学習ですが、自分たちの住む地域の特性をあらためて知る手がかりとしても活用できるのではないのでしょうか。